

平成31年 2月

田中那津美 学位論文審査要旨

主査 松浦達也
副主査 千酌浩樹
同 山崎章

主論文

Early intensive nutrition intervention with dietary counseling and oral nutrition supplement prevents weight loss in patients with advanced lung cancer receiving chemotherapy: a clinical prospective study

(食事カウンセリングと経口栄養サプリメントによる早期集中栄養介入は化学療法を受ける進行期肺癌患者の体重減少を予防する：臨床前向き研究)

(著者：田中那津美、武田賢一、河崎雄司、山根康平、照屋靖彦、小谷昌広、井岸正、山崎章)

平成30年 Yonago Acta Medica 61巻 204頁～212頁

参考論文

1. Frequency of epidermal growth factor receptor mutation in smokers with lung cancer without pulmonary emphysema

(肺気腫がない肺癌喫煙者の上皮成長因子受容体変異の頻度)

(著者：武田賢一、山崎章、井岸正、河崎雄司、西井(伊藤)静香、泉大樹、阪本智宏、唐下泰一、小谷昌広、牧野晴彦、矢内正晶、田中那津美、松本慎吾、荒木邦夫、中村廣繁、清水英治)

平成29年 ANTICANCER RESEARCH 37巻 765頁～771頁

審査結果の要旨

本研究は、非小細胞肺癌患者における新世代制吐薬を併用した細胞障害性抗癌剤投与中の体重減少を早期の集中的栄養指導と栄養補助食品の投与により抑制できるかどうかを検討したものである。これまでの栄養介入の報告は新しい制吐薬が使用される前のものであり、有意な体重減少の抑制は認めていなかった。本研究では、細胞障害性抗癌剤治療中に適切な制吐薬併用下に管理栄養士による月1回の食事カウンセリングと経口栄養補助飲料の提供を90日間行った。その結果、栄養介入群と同様の背景を持つ患者データと比較して、体重増加を認めた患者群が有意に多い傾向を認めた。本論文の内容は、適切な制吐薬の併用下であれば早期の集中的栄養介入により細胞障害性抗癌剤治療中の体重減少を抑制できる可能性を示唆するものであり、患者のQOLや治療効果、生命予後の改善も期待でき、明らかに学術水準を高めたものと認める。